

西本議員（民主県政会）

平成 29 年 12 月 13 日
教育長答弁実録
(教育委員会)

(問) 社会でたくましく生きるための力の育成について

「学びの変革」や、ひろしま未来チャレンジビジョンの「教育」の部分の取組は、いわゆる「できる子」向けの教育プランのように思えてならない。

これらの教育プランを否定するものではないし、これからの社会を生き抜くために、しっかりと継続すべき取組であると思うが、私が重要であると考えるのは、子供たちが将来、社会に出て、いきいきと生きていくための素地をつくるための教育であり、例えば、「耐える力とおおらかな精神」「強くハングリーに生きる精神」を育むということである。

そこで、社会に出て、たくましく生きていくために求められる力とは何なのか、また、その力をどのようにして育成していこうとしているのか、併せて教育長に伺う。

(答)

グローバル化や情報化が急速に進展する先行き不透明な社会におきましては、子供たちに、様々な場面で活用できる「知識・技能の深い理解」、新しい価値を生み出すために必要な「創造的・批判的思考力」、異なる文化・価値観を持つ人々と「協働する力」、目標に向かって「やり抜く力・自信」などの力を育むことが必要であると考えております。

こうした力を育むため、教師が、児童生徒の経験や学力の状況、あるいは、思いや願いなど、児童生徒一人ひとりの状況をしっかりと踏まえた上で、学習活動を組み立てることにより、子供たちが、自ら学び、学んだ知識をつないで新しい価値を生み出す、いわゆる「主体的な学び」を推進しているところでございます。

教育委員会といたしましては、このような学習活動を全県的に進めていくことによりまして、すべての子供たちに、これからの社会をたくましく生きていくことができる力を育んでまいりたいと考えております。